

## 「族長・イサク」

2014年05月08日

アブラハムの一人息子・イサクは丸顔で、お腹に少し脂肪がついて、いつもニコニコしているお人よしの人物を、私は想像します。父・アブラハムと母・サラに愛され、大事に育てられたに違いないでしょう。彼は争うことを嫌う、徹底した平和主義者です。イサクが井戸を掘ると、豊かな水が湧き出てきます。水の湧き出る井戸は、今日で言えば、油田を掘り当てたような莫大な財産です。イサクは、その井戸を奪われますが、争うことなく、井戸をくれてやっています。また、別の井戸を掘り当てますが、それも取られる。何回も、そのような経験をしてはいますが、惜しげもなく手放しています。彼は争うことが嫌いで、争うくらいなら他に移住する生き方をしています。恵まれた幸運な人と言えます。

イサク物語の圧巻は彼の「嫁探し」の顛末でしょう。アブラハムの忠実な僕が主人の一人息子・イサクのために祈りをもって「嫁探し」に出かけます。祈りが聞かれ、美しく、心優しい女性・リベカと出会います。喜んだ僕は多くの贈り物を差し出し、イサクとの結婚を丁重に申し込みます。リベカの兄・ラバンは強欲な人で、多くの高価な贈り物を見て喜び、即座に承諾します。忠実な僕は一刻も早く吉報を伝えたいと、出会った翌日、リベカを連れて帰りたいと言います。ラバンは別れの時を10日ほど、持ちたいと言いますが、リベカは「はい、参ります」と答えます。リベカは、主人に忠実な僕の振る舞いを見て、安心して、イサクとの結婚を決断したのです。彼女は人を見る目を持ち、何よりも、信仰的な決断ができる女性でした。美しく、心優しく、信仰深いリベカにイサクはどれほど慰められ、頼りにしたことでしょうか。

ある牧師の本に、臆面もなく「私の妻はリベカです」と、書いているのを読んで、彼の幸せを思いました。

両親に愛され、よき妻に恵まれたイサクは、そのことのゆえに、わがままであったようです。リベカとの間に双子の兄弟、長兄・エサウと次男・ヤコブが生まれます。長兄・エサウは野の獣を追う狩人になり、次男・ヤコブは牧羊者になります。野の獣の肉が好きであったイサクは長兄・エサウを偏愛します。リベカは「兄が弟に仕える」という神の言葉を聞いて、次男・ヤコブに味方します。そのことが、エサウとヤコブの兄弟争いになっていきます。

わがままを通せる人生を送ったイサクは族長の中では影の薄い人物ですが、恵まれたお人よしのイサクのような人生を、誰もが望むのではないのでしょうか。自分の息子を「イサク」と命名した人が多くいます。息子を「イサク」と名付ければ、自分は「アブラハム」と言っている訳で、越権のようにも思えますが、平和を求め、穏やかなイサクの人生を願っての命名でしょうか。